

音楽アーティスト科 シンガーソングライターコース 受講科目一覧 1年次

DTM・トラックメイキング専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを捨捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を増やしながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックバンド「凶鑑」にてドリーミュージックよりアルバムを全国リリース</li> <li>・FREAK等、アーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> </ul> 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、楽器の技術や知識等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 5～8回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 9～12回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 13～16回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 17～19回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 24～27回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 28～31回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 32～35回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 36～37回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば意外と簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルトラックメイキング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<p>・つぼみ(よしもとクリエイティブエージェンシー)「パッパラPARTY」/作曲</p> <p>・こまごめビペット(よしもとクリエイティブエージェンシー)「アストロ・コード」「魔法トマホーク」「ネバーランド」/作詞・作曲</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、聴音力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>様々なバリエーションの課題フレーズを打ち込みながらトラックの制作基礎力と音楽への総合的な造詣を深めていきます。</p> <p>「サウンドプロジェクト」で制作中のプロジェクトや作曲を行っていく上でどのようなアプローチで楽曲制作して行くかを習得します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルオーディオワークステーションで学習しているオペレーション学習進度に応じた制作課題の提出による作品制作。</li> <li>・効率的なオペレーション、制作の進め方を把握する。</li> <li>・パターンやコードの打ち込み、サンプル音源の使い方などを覚え、スムーズなトラック制作を習得する。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	すでに完成されているDAWのプロジェクトを用いり作曲プロジェクトの立て方について理解を深め、どのようなアプローチで楽曲を構成し制作を行っていくかを学ぶ。
【前期】 5～8回目	課題曲①こちらで選定した楽曲(HIP HOP)をリファレンスとし1分程度の制作プロジェクトを立て制作。楽曲を作成していく上でHip Hop特有のドラムパターンの打ち込みを習得する。 8回目に完成、発表。
【前期】 9～12回目	課題曲②制作した楽曲に対しての反省点等を挙げアドバイスを出し、それらを踏まえこちらで選定した楽曲(House)を用いりリファレンスとし新たな1分程度の中期制作プロジェクトを立てる。12回目に完成、発表。
【前期】 13～16回目	9～12回目で完成した楽曲の1分から先を制作し3分程度の1曲に仕上げる。その際にドラムパターンやコードについてのアドバイスを行う。 12回目で完成、発表。
【前期】 17～19回目	課題曲③ ①②で立てたプロジェクトを参考に各自リファレンス曲を選定し、2分程度の制作プロジェクトを立てる。 19回目で中期発表。 ■前期試験:楽曲制作により「クリエイティビティ / オリジナリティ / 制作意欲」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	17～19回目で制作した楽曲の2分から先を制作し3分強4分弱程度の一曲に仕上げる。 19回目で完成、提出。
【後期】 24～27回目	課題曲③での楽曲に対してアドバイスをを行い、また新たに各自リファレンス楽曲を用いり2分程度の制作プロジェクトを立てる。
【後期】 28～31回目	課題曲③24～31回目の制作プロジェクトの中間発表を行う。その際に各自にアドバイス及び指導を行い、2分の楽曲を4分程度に仕上げ1曲にする。 27回目で完成、発表。
【後期】 32～35回目	DAWにおけるミキシングでのEQやCompressorの基礎知識を理解し、実際にそれらを使用し理解を深める。
【後期】 36～37回目	ミキシングを行う上でのPanの振り方音量のバランスの取り方について理解を深める。またそれと同時にセンド/リターンの使い方も習得する。 ■後期試験:楽曲制作により「クリエイティビティ / オリジナリティ / 制作意欲」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クリエイティビティ / オリジナリティ / 制作意欲」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	DAWで楽曲制作を行うにあたりDAWとはどういったものかや、それによって何が出来るかへの理解を深めて頂き、スムーズに楽曲制作を行っていく様になって頂きたいと思っております。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングメーカー I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラース、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「作曲ソフト(Logi Pro X)の操作、作曲と編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽理論などを通じ、楽曲の成り立ち、仕組みや構成を理解する。</li> <li>コード/メロディー感の類例を取り入れながら自分の思いをしっかりと言葉として歌詞に落とし込む方法を学びます。</li> <li>原曲を装飾するために基礎的なDAWの操作の習得し楽曲として成立させる。</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の作曲、作詞方法を大系的に学び、オリジナル楽曲を自分の力で作れるようになる。</li> <li>オリジナル楽曲を自分の力で作れるようになる。</li> <li>楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。生徒自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化すること。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>Majorスケール、ダイアトニックコード、Keyを理解する。</li> <li>春、別れ、出会いなどのテーマを用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> </ul>
【前期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>Minorスケール、マイナーダイアトニックコードを理解する。</li> <li>雨、気だるさ、憂鬱などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> </ul>
【前期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>音高それぞれの役割を理解する。</li> <li>夏、花火、お祭りなどのテーマを用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> </ul>
【前期】 13～16回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイアトニックコードのトニック、サブドミナント、ドミナントなど、コードそれぞれの役割を理解する。</li> <li>夏の終わり、セミ、残暑などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> <li>ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込み</li> </ul>
【前期】 17～19回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>7の和音の理解とダイアトニックコードを理解する。</li> <li>秋、落ち葉、紅葉などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> <li>■前期試験：楽曲の制作により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の到達度を確認する。</li> </ul>
【後期】 20～23回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>鼻歌などから、コードを充てる方法を解説。作曲課題の提出。</li> <li>街、日常、風景などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。</li> </ul>
【後期】 24～27回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>小節、拍、リズムの解説。</li> <li>冬、クリスマス、正月などをテーマに作詞。考察、ディスカッション。</li> </ul>
【後期】 28～31回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉とメロディーの関連性を理解するために、課題曲①のコード構成、メロディーラインのアナライズ。</li> </ul>
【後期】 32～35回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉とメロディーの関連性を理解するために、課題曲②のコード構成、メロディーラインのアナライズ。</li> <li>ギターやヴォーカルなどのオーディオRECにトライ。</li> </ul>
【後期】 36～37回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル楽曲の制作と課題提出。</li> <li>■後期試験：楽曲の制作により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代のミュージシャンにとって、作詞作曲というのは必須のスキルです。 また、ただ作るというだけではなく、ある程度のイメージを相手に伝えるためにも、少しだけでもアレンジを加えておくという事も大事になります。DTMの授業などと複合して、作詞、作曲ができるスキルを習得しましょう。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW基礎/ボーカロイド		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	UNIVERSAL MUSIC GROUPよりリリースした楽曲「EMMMA WHALIN / MAKE YOU MOVE」オフィシャルREMIXなどを制作。福岡を中心にDJとしても活躍中。上記の経歴を活かし、職業として求められる「表現 I」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
作曲・編曲などDAW(Logic Pro)の基礎的な使い方を理解・習得します。楽曲制作を行う手順を一から理解できる様になります。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。</li> <li>・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。</li> <li>・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。</li> <li>・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みを習得する。</li> <li>・ボーカロイドの操作を習得。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	DAWについて、Logicについて。 Logicの操作方法、基礎的な使用方法について。
【前期】 5～8回目	Drumパターンの打ち込み(MIDIノート)、クオンタイズについて。 Drum Fillの作り方、打楽器について。
【前期】 9～12回目	鍵盤楽器の打ち込み。アルペジオ、コード打ち込みについて。
【前期】 13～16回目	ベースの打ち込み。ベースのパターンについて考える。 楽曲制作① 1分程度の楽曲制作。
【前期】 17～19回目	楽曲制作①提出、フィードバック。メロディの打ち込みについて。 ミキシング・マスタリングについて①
【後期】 20～23回目	ストリングス・ブラス系の打ち込みについて。 弦楽器・管楽器の種類についての理解。
【後期】 24～27回目	シンセサイザーの使い方、打ち込みについて。 オートメーション、音色の作り方。
【後期】 28～31回目	楽曲制作② 3分程度の楽曲作成。 ボーカロイドの使用方法について。
【後期】 32～35回目	楽曲制作②フィードバック。 ボーカロイドの歌わせ方。ミキシング、マスタリングについて②
【後期】 36～37回目	コンプ・EQ・リバーブ等の使用方法について理解を深める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲制作は音楽業界の中でも中心的な存在です。最初は難しく感じるとはいますが、苦手意識を持たずフラットな気持ちでDAWの様々な使い方を勉強しましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
<b>授業概要</b>					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。</li> <li>・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。</li> <li>・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。</li> <li>・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。</li> <li>・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と実技試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と実技試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声をツールとして身につける。</li> <li>・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を上げるとともに音量、音圧など自在にコントロールできるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	教科書使用(ボイス理論1～4)
【前期】 5～8回目	教科書使用(ボイス理論5～8)
【前期】 9～12回目	教科書使用(ボイス理論9～12)
【前期】 13～16回目	教科書使用(ボイス理論13以降)
【前期】 17～19回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	基礎発声練習(チェストボイスの開発)
【後期】 24～27回目	基礎発声練習(チェストボイスの定着)
【後期】 28～31回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの開発)
【後期】 32～35回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの定着)
【後期】 36～37回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変更していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」



## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アコースティックギター		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲「小さな光」「少しだけ…」「少年」等、メジャーレーベルからCDリリース</li> <li>・自身のライブを行い、シンガーソングライターとして福岡県を中心に活動中。</li> <li>・上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。</li> </ul>				
<b>授業概要</b>					
アコースティックギターの奏法を、実技だけにとどまらず、頭でしっかり理解できるような授業を目指します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲においても重要な役割を果たすアコースティックギターの様々な可能性を体験し、今後の音楽活動に活かせるようにする。</li> <li>・弾き語りができるようになる。ジャンルによって奏法が弾き分けられるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	アコースティックギターに実際に触れ、慣れ親しむ。各部名称の把握、チューニングの方法など。8ビートの基本的なストロークの習得。オモテとウラに対応するストロークの理解。
【前期】 5～8回目	16ビートの基本的なストロークの習得。シャッフルリズムのストロークの習得
【前期】 9～12回目	ピックを使ったアルペジオを理解し習得。指弾きでのアルペジオを理解し習得。実際によく使われる伴奏パターンの習得。
【前期】 13～16回目	スリーフィンガー奏法の理解と習得。親指で低音リズムをキープすることを基本に展開し最終的な習得を目指す。
【前期】 17～19回目	前期のまとめと奏法のおさらい。 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ボサノバ奏法を考察、習得。
【後期】 24～27回目	フィンガーピッキング ジャンル別 シンガーソングライターがよく用いるパターンを考察、習得。
【後期】 28～31回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ブルースギター奏法を考察、習得。
【後期】 32～35回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ラグタイムギター奏法を考察、習得。
【後期】 36～37回目	後期のまとめと奏法のおさらい。 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の7項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いつの時代も、音楽シーンにおいてギター弾き語りは身近なパフォーマンスとして親しまれてきました。照明や音響の過度な演出に頼らずとも演者の世界観を聴衆に届けることができる、アコースティックギター弾き語りに役立つ色々な奏法の魅力を体験してください。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳アニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを学ぶ。また鍵盤楽器への造詣を深めることにより音楽全般への理解を音感・聴音などの観点からもその向上をはかる。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。</li> <li>・簡単なフレーズ類例をもとに左手で低音、右手で主旋律を奏でられるようにトレーニングを実施し、両手で楽曲を演奏できるようにする。</li> <li>・楽曲を一度聞いた後、初見でコード譜を演奏できるようにする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 5～8回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 9～12回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしゃれコードについて (トライアド、7th、sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 13～16回目	【課題曲】上を向いて歩こう・Lemon
【前期】 17～19回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 24～27回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 28～31回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 32～35回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 36～37回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シンガーソングライター実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・つぼみ(よしもとクリエイティブエージェンシー)「パッパPARTY」/作曲</p> <p>・こまごめピペット(よしもとクリエイティブエージェンシー)「アストロ・コード」「魔法トマホーク」「ネバーランド」/作詞・作曲</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「アンサンブル基礎等」の指導を行う。</p>				
<b>授業概要</b>					
シンガーソングライターとしてのステージに必要な弾き語りのスキルを習得します。他者の演奏を客観的に観察、考察して演奏やステージに対する理解や表現を深めます。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギターやピアノを弾きながら歌うことに慣れる。</li> <li>・歌う楽曲のリズムや拍子を正しく理解し、適切な演奏方法を習得する。</li> <li>・歌唱と同じ集中力でギターやピアノを演奏することができる。</li> <li>・オリジナル曲を弾き語りをして表現する。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【自由曲(歌唱のみ)】テーマに応じた選曲をし、歌唱する。歌唱力だけでなくライブやオーディションであることを前提に表現力やパフォーマンスにも焦点を当てて考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 5～8回目	【カバー曲】講師の演奏サポートあり。楽曲に応じたギターのバックイングやピアノの演奏方のアプローチを学びながら「弾きながら(楽器に触れながら)歌うこと」に慣れていきます。
【前期】 9～12回目	【オリジナル曲①】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 13～16回目	【オリジナル曲②】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 17～19回目	【オリジナル曲③】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。 ■前期試験:課題曲の歌唱、演奏により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【オリジナル曲④】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 24～27回目	【オリジナル曲⑤】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 28～31回目	【オリジナル曲⑥】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 32～35回目	【オリジナル曲⑦】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 36～37回目	【オリジナル曲⑧】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。 ■後期試験:課題曲の歌唱、演奏により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自作の曲は楽器とともに歌唱することでより曲の世界観を伝えることができます。他の授業や自主練で練習した技術を「歌と」ともに演奏するための技術や表現方法を伝えていきます。また、他者の歌を聞いて、考えることが自分の歌を磨くためのヒントになることも多くあります。

備考	
----	--

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越センター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要	テーマ毎に課題楽曲を用い、バンドアンサンブルを通して歌唱、演奏、リズム、サウンド、アレンジ、パフォーマンスなど様々な角度から楽曲の表現技術を習得します。				
到達目標	・リズムや小節、拍の概念を理解する。・サウンドやリズムによる曲に対しての表現効果を理解する。 ・実践に近い形でステージパフォーマンスのイメージをつける。また、機材の使い方や現場での立ち振る舞いを習得する。 ・リズムや小節・拍を理解することで、他パートと合わせて曲を進行することができる。 ・表現効果を理解することで、楽曲テーマ、イメージに沿ったサウンド作りができる。 ・実際の現場、ステージでプロ意識を持ち対応できる。				

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【課題曲①】楽曲の考察と、歌唱の練習。【課題曲①】アンサンブルにて拍、小節、リズムの把握。他パートとのコミュニケーションをはかる。マイクの使い方やその他機材の理解。
【前期】 9～16回目	【課題曲②】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。【課題曲②】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチを考察。自分なりの解釈で、歌唱表現を練習。【課題曲②】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【前期】 17～24回目	【課題曲③】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。メロディーとリズムの関連を理解。【課題曲③】アンサンブルにて他パートとメロディーのリズムの兼ね合いを確認、練習。【課題曲③】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【前期】 25～32回目	【課題曲①～③】ライブ発表会に向け、各自選択曲を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。【課題曲①～③】機材の使い方について再度確認。発表会当日に行うステージでの流れを確認。
【前期】 33～38回目	【課題曲④】楽曲の考察と、様々なアーティストによるカバーを参照し、各自アレンジを思考。歌唱、表現の練習。【課題曲④】アンサンブルにて各自アレンジの思考を他パートへ伝える。⇨伝え方や知識、情報の収集。思考力の重要性を意識する。 ■前期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【課題曲⑤】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。【課題曲⑤】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチやリズムによる表現効果を考察。【課題曲⑤】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 47～54回目	【課題曲⑥】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑥】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑥】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 55～62回目	【課題曲⑦】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑦】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 63～70回目	【課題曲⑧】オリジナル楽曲を課題とする。楽曲の考察、歌唱表現の練習。アレンジの思考。資料の作成。【課題曲⑧】アンサンブルにて自身楽曲アレンジの思考を他パートへ伝える。表現試行。【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 71～74回目	【課題曲⑤～⑧】ライブ発表会に向け、各自選択曲(主にオリジナル)を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。【課題曲⑤～⑧】1年間のまとめ。発表会当日に行うステージでの流れを確認。 ■後期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽の表現に確固たる「正解」というものはありませんが、言葉や音、リズムによって感じる効果は概ね共有できます。その効果を自身の演奏だけでなく他パートの音やフレーズも交えながら習得していくことで、自身のライブステージや楽曲制作においてより明確に理想を具現化することができます。また、他の音をイメージすることで弾き語りでの表現力も高まります。
備考	

音楽アーティスト科 シンガーソングライターコース 受講科目一覧 1年次

楽器・弾き語り専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを捨捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラス、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、調音力等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 5～8回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 9～12回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 13～16回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 17～19回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 24～27回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 28～31回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 32～35回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 36～37回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	弾き語りの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</p> <p>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽史等」の指導を行う。</p>				
<b>授業概要</b>					
<p>歴代のシンガーソングライターとその時代背景を追いながら、自身が影響を受けたアーティストのルーツ曲を各自ピックアップし、曲を考察する力を養います。また、インプット・アウトプットの感性を育成します。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らのルーツ・本質を理解する。</li> <li>・「作詞」「作曲」「歌唱」の視点から曲を理解する。</li> <li>・様々なアウトプットの方法を習得する。</li> <li>・自らのルーツを理解することで、作詞・作曲・編曲時に取り入れることができる。</li> <li>・演奏時に、自身の感性・個性を表現することができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	<p>【pick up1】1960～1980年代。シンガーソングライターの始まり。当時のシンガーソングライターの概念理解。</p> <p>【pick up2】1990～2010年代。現代のシンガーソングライターの在り方。時代背景から読み解く音楽の傾向、移り変わり。</p>
【前期】 5～8回目	<p>【pick up3】自身が影響を受けたアーティストの影響を受けたアーティスト1人目。影響を受けた部分の考察。アーティストの時代背景、ルーツのリサーチ。【pick up3】楽曲を聴き比べて考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【前期】 9～12回目	<p>【pick up4】自身が影響を受けたアーティストの影響を受けたアーティスト2人目。影響を受けた部分の考察。アーティストの時代背景、ルーツのリサーチ。【pick up4】楽曲を聴き比べて考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【前期】 13～16回目	<p>【pick up5】自身が影響を受けたアーティストの影響を受けたアーティスト3人目。影響を受けた部分の考察。アーティストの時代背景、ルーツのリサーチ。【pick up5】楽曲を聴き比べて考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【前期】 17～19回目	<p>【pick up6】自身が影響を受けたアーティストの影響を受けたアーティスト4人目。影響を受けた部分の考察。アーティストの時代背景、ルーツのリサーチ。【pick up6】楽曲を聴き比べて考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p> <p>■前期試験：筆記試験にて「影響を受けたアーティスト / 時代背景 / 自身が影響を受けた部分」の理解度を確認する。</p>
【後期】 20～23回目	<p>【pick up7】70年代、大きな影響を与えたアーティスト。時代背景。影響を与えた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p> <p>【pick up8】80年代、大きな影響を与えたアーティスト。時代背景。影響を与えた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【後期】 24～27回目	<p>【pick up9】90年代、大きな影響を与えたアーティスト。時代背景。影響を与えた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p> <p>【pick up10】00年代、大きな影響を与えたアーティスト。時代背景。影響を与えた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【後期】 28～31回目	<p>【pick up11】10年代、大きな影響を与えたアーティスト。時代背景。影響を与えた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p> <p>【pick up12】自分が影響を受けたアーティスト1。時代背景、ルーツ。影響を受けた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【後期】 32～35回目	<p>【pick up13】自分が影響を受けたアーティスト2。時代背景、ルーツ。影響を受けた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p> <p>【pick up14】自分が影響を受けたアーティスト3。時代背景、ルーツ。影響を受けた部分の考察。実際に歌唱し、表現の練習。</p>
【後期】 36～37回目	<p>【まとめ】pick upしてきた楽曲を振りかえり、自身のルーツや影響を受けた部分をまとめる。自身の音楽性を考察する。</p> <p>■後期試験：筆記試験にて「影響を受けたアーティスト / 時代背景 / 自身が影響を受けた部分」の理解度を確認する。</p>
評価方法	<p>S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。</p> <p>学期末に実施する試験により「影響を受けたアーティスト / 時代背景 / 自身が影響を受けた部分」の3項目の理解到達度を総合的に評価する。</p>
学生へのメッセージ	<p>様々な曲が世に溢れている中、表現者としてはまず自分がどのような音や言葉、リズムに対して「好きだ」「かっこいい」「楽しい」と思うのかを理解していくことが重要です。そして時代の変化とともにどんどん多様化していく表現社会の中、「自分はこうありたい」と自信を持って発信できるよう、自身のアイデンティティを見つけていきましょう。</p>
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングライティング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</p> <p>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。</p>				
<b>授業概要</b>					
作詞作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような曲作り。					
<b>到達目標</b>					
<p>・生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で作成することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらう。</p> <p>・生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音楽の3大要素、メロディ、リズム、ハーモニーと共に、主題、形式、調性、拍子、テンポなど楽曲を構築する音楽の基盤を理解する。歌詞の構成とセクションごとの役割について。
【前期】 5～8回目	スリーコードで楽曲を作成。コードの響きと構成、役割を理解する。メジャースケールを用いたメロディの作成。Keyの概念を理解する。様々な歌詞の分析。フレーズから読み取れる情景や感情を読み取る。
【前期】 9～12回目	ダイアトニックコードで楽曲を作成。カデンツを構築し、コードの役割の理解を深める。代理コード、セカンダリドミナントなどを用いて、コード進行のバリエーションを考える。テーマに沿った歌詞を執筆。文法について解説。
【前期】 13～16回目	王道のコード進行で楽曲を作成。昨今のJ-Popにおいて楽曲の構成を研究。ダイアトニックコードとの関係を分析し、使い方の理解を深める。リズムによる印象の捉え方の違いを考え、歌詞の内容や感情に沿った楽曲制作を目指す。
【前期】 17～19回目	テーマに沿った楽曲を作成。前期授業で得た知識、情報を用いて自由に制作。自身の歌唱技術や演奏技術とのバランスを考慮し、理想のアーティスト像に向けて今後の取り組み方を考える。 ■前期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	様々なテンポ、リズムで楽曲を作成。テンポやリズムの違いにより受ける印象を考察。弾き語る際の楽器のアプローチを解説。循環コード、強進行について。顔を踏むワード。言葉のリズムを考える。
【後期】 24～27回目	3拍子、6/8拍子、3連のリズムで楽曲を作成。4/4拍子との違いを研究し、拍子の概念を深める。弾き語る際の楽器のアプローチを解説。メロディと言葉のリズムの密接な関係を捉え、拍子や楽曲のリズムに合ったメロディを作成。
【後期】 28～31回目	分数コードを用いて楽曲を作成。コードの構成におけるルート音、ベース音を理解する。テンションコードが与える印象の変化を捉える。ディミニッシュコードの様々な使い方を解説。メロディに言葉を決める。空白を作る。
【後期】 32～35回目	転調を用いた楽曲を作成。転調の使い方やそれが与える印象について。部分転調、モーダルインターチェンジについて解説。Keyへの理解を深める。歌詞において、時間の流れを感じるの構成、対比する構成を考える。
【後期】 36～37回目	これまでの授業で得た知識、情報、技術を用いて自由に制作。自身の思い描く表現を形にする。 ■後期試験: 楽曲の制作により「作曲のクオリティ/作詞のクオリティ/音楽要素の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「作詞/メロディー/制作楽曲/メジャー、マイナーキーの理解/ダイアトニックコードの理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞作曲は、シンガーソングライターやその他の音楽業界に於いても核となるとも重要な業務です。そして活動の限り作り続けていかなければなりません。楽曲へアウトプットしていくために必要な情報や知識のインプットとその方法を、様々な角度から音楽に触れて楽しみながらしっかり学んでいきましょう。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルソング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
作詞作曲したオリジナル楽曲を中心に自由課題を歌い込み、洗練させるための指導。ライブやレコーディングなど、より実践的なステージへと繋げるための準備。					
<b>到達目標</b>					
自らのブランディングに必要な各課題を年間を通して学習する。卒業後のアーティスト活動をよ・洗練させ歌い込むことで、アーティストとしての表現力を高める。  ・自作の曲をライブやレコーディングを想定しシュミレーションすることで、シンガーソングライターとしての活動の流れを把握する。リズムーズにするため、自らのプロデュースを研究し、広く世界に発信していく方法論を獲得していけるようにします。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題1。カバー曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、オリジナル曲の参考にする。原曲と比べ、自身なりの表現を考える。カバー曲を通しオリジナリティを構築していく。□
【前期】 5～8回目	課題2。カバー曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、オリジナル曲の参考にする。原曲と比べ、自身なりの表現を考える。カバー曲を通し自身のオリジナリティを構築していく。
【前期】 9～12回目	課題3。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いそのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【前期】 13～16回目	課題4。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いそのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【前期】 17～19回目	課題5。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いそのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 20～23回目	課題6。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。オリジナル曲のみでライブを実施。1ステージ2、3曲。楽曲のバラエティを考える。
【後期】 24～27回目	課題7。これまでに取り組んだ楽曲の一つを簡易レコーディングする。RECを通して楽曲が世に出るまでの仕組みを理解する。編曲について考える。RECを通して自身の楽曲、演奏技術を客観的に捉える。
【後期】 28～31回目	課題8。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いそのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 32～35回目	課題9。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。想いそのまま表現するための技法習得、向上を目指す。
【後期】 36～37回目	課題10。オリジナル曲推奨。楽曲の構成、歌詞を掘り下げ、熟考する。オリジナル曲の譜面を作成。譜面の書き方を通してオリジナル曲への理解を深める。オリジナル、カバーを含む1ステージ4曲ほどのライブを実施。ライブ構成を考える。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一つ一つの授業が自らのブランディングに直結していきます。必要なノウハウを学んで自己アピールの方法論を実践できるようになりましょう。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
<b>授業概要</b>					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。</li> <li>・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。</li> <li>・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。</li> <li>・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。</li> <li>・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と実技試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と実技試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声ツールとして身につける。</li> <li>・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げるとともに音量、音圧など自在にコントロールできるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	教科書使用(ボイス理論1～4)
【前期】 5～8回目	教科書使用(ボイス理論5～8)
【前期】 9～12回目	教科書使用(ボイス理論9～12)
【前期】 13～16回目	教科書使用(ボイス理論13以降)
【前期】 17～19回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	基礎発声練習(チェストボイスの開発)
【後期】 24～27回目	基礎発声練習(チェストボイスの定着)
【後期】 28～31回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの開発)
【後期】 32～35回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの定着)
【後期】 36～37回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと改変していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アコースティックギター		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	1996年よりシンガーソングライターとしてアーティスト活動開始。弾き語りライブを行う。「合言葉」「よるこんでいなさい」等、自主制作CD多数リリース。エフエム佐賀「週末ボイス☆ナビ」、福岡コミュニティラジオ天神「はちみつ☆つよじのブブランチタイム」等、ラジオ番組レギュラー出演しており、唐津ケーブルテレビジョン「この人にトキメキ！」等、テレビ番組レギュラー出演も継続中。2007年よりアコースティックギターや歌の指導もしている。				
<b>授業概要</b>					
アコースティックギターの奏法を、実技だけにとどまらず、頭でしっかり理解できるような授業を目指します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲においても重要な役割を果たすアコースティックギターの様々な可能性を体験し、今後の音楽活動に活かせるようにする。</li> <li>・弾き語りができるようになる。ジャンルによって奏法が弾き分けられるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	アコースティックギターに実際に触れ、慣れ親しむ。各部名称の把握、チューニングの方法など。8ビートの基本的なストロークの習得。オモテとウラに対応するストロークの理解。
【前期】 5～8回目	16ビートの基本的なストロークの習得。シャッフルリズムのストロークの習得
【前期】 9～12回目	ピックを使ったアルペジオを理解し習得。指弾きでのアルペジオを理解し習得。実際によく使われる伴奏パターンの習得。
【前期】 13～16回目	スリーフィンガー奏法の理解と習得。親指で低音リズムをキープすることを基本に展開し最終的な習得を目指す。
【前期】 17～19回目	前期のまとめと奏法のおさらい。 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ボサノバ奏法を考察、習得。
【後期】 24～27回目	フィンガーピッキング ジャンル別 シンガーソングライターがよく用いるパターンを考察、習得。
【後期】 28～31回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ブルースギター奏法を考察、習得。
【後期】 32～35回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ラグタイムギター奏法を考察、習得。
【後期】 36～37回目	後期のまとめと奏法のおさらい。 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の7項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いつの時代も、音楽シーンにおいてギター弾き語りは身近なパフォーマンスとして親しまれてきました。照明や音響の過度な演出に頼らずとも演者の世界観を聴衆に届けることができる、アコースティックギター弾き語りに役立つ色々な奏法の魅力を体験してください。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</li> <li>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</li> </ul> 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを学ぶ。また鍵盤楽器への造詣を深めることにより音楽全般への理解を音感・聴音などの観点からもその向上をはかる。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。</li> <li>・簡単なフレーズ類例をもとに左手で低音、右手で主旋律を奏でられるようにトレーニングを実施し、両手で楽曲を演奏できるようにする。</li> <li>・楽曲を一度聞いた後、初見でコード譜を演奏できるようにする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 5～8回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 9～12回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしやれコードについて (トライアド、7th, sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 13～16回目	【課題曲】上を向いて歩こう・Lemon
【前期】 17～19回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 24～27回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 28～31回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 32～35回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 36～37回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え同時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張らしましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シンガーソングライター実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
シンガーソングライターとしてのステージに必要な弾き語りのスキルを習得します。他者の演奏を客観的に観察、考察して演奏やステージに対する理解や表現を深めます。					
<b>到達目標</b>					
・ギターやピアノを弾きながら歌うことに慣れる。 ・歌う楽曲のリズムや拍子を正しく理解し、適切な演奏方法を習得する。 ・歌唱と同じ集中力でギターやピアノを演奏することができる。 ・オリジナル曲を弾き語りをして表現する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【自由曲(歌唱のみ)】テーマに応じた選曲をし、歌唱する。歌唱力だけでなくライブやオーディションであることを前提に表現力やパフォーマンスにも焦点を当てて考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 5～8回目	【カバー曲】講師の演奏サポートあり。楽曲に応じたギターのバックিংやピアノの演奏方のアプローチを学びながらまずは「弾きながら(楽器に触れながら)歌うこと」に慣れていきます。
【前期】 9～12回目	【オリジナル曲①】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 13～16回目	【オリジナル曲②】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【前期】 17～19回目	【オリジナル曲③】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。 ■前期試験: 課題曲の歌唱、演奏により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【オリジナル曲④】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 24～27回目	【オリジナル曲⑤】自作のオリジナル曲を使用し、「歌唱/演奏/表現力」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 28～31回目	【オリジナル曲⑥】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 32～35回目	【オリジナル曲⑦】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。
【後期】 36～37回目	【オリジナル曲⑧】自作のオリジナル曲を使用し、「ライブやオーディションでのステージ」を基準とした考察、感想を述べてクラス全員で理解を深めます。 ■後期試験: 課題曲の歌唱、演奏により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱力 / 演奏力 / 表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自作の曲は楽器とともに歌唱することでより曲の世界観を伝えることができます。他の授業や自主練で練習した技術を「歌とともに演奏するための技術や表現方法を伝えていきます。また、他者の歌を聞いて、考えることが自分の歌を磨くためのヒントになることも多くあります。
備考	



## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「楽曲制作の技術と知識、歌唱技術等」の指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
テーマ毎に課題楽曲を用い、バンドアンサンブルを通して歌唱、演奏、リズム、サウンド、アレンジ、パフォーマンスなど様々な角度から楽曲の表現技術を習得します。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや小節、拍の概念を理解する。・サウンドやリズムによる曲に対しての表現効果を理解する。</li> <li>・実践に近い形でステージパフォーマンスのイメージをつける。また、機材の使い方や現場での立ち振る舞いを習得する。</li> <li>・リズムや小節・拍を理解することで、他パートと合わせて曲を進行することができる。</li> <li>・表現効果を理解することで、楽曲テーマ、イメージに沿ったサウンド作りができる。</li> <li>・実際の現場、ステージでプロ意識を持ち対応できる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【課題曲①】楽曲の考察と、歌唱の練習。【課題曲①】アンサンブルにて拍、小節、リズムの把握。他パートとのコミュニケーションをはかる。マイクの使い方やその他機材の理解。
【前期】 9～16回目	【課題曲②】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。【課題曲②】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチを考察。自分なりの解釈で、歌唱表現を練習。【課題曲②】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【前期】 17～24回目	【課題曲③】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。メロディーとリズムの関連を理解。【課題曲③】アンサンブルにて他パートとメロディーのリズムの兼ね合いを確認、練習。【課題曲③】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【前期】 25～32回目	【課題曲①～③】ライブ発表会に向け、各自選択曲を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。【課題曲①～③】機材の使い方について再度確認。発表会当日に行うステージでの流れを確認。
【前期】 33～38回目	【課題曲④】楽曲の考察と、様々なアーティストによるカバーを参照し、各自アレンジを思考。歌唱、表現の練習。【課題曲④】アンサンブルにて各自アレンジの思考を他パートへ伝える。⇨伝え方や知識、情報の収集。思考力の重要性を意識する。 ■前期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【課題曲⑤】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。【課題曲⑤】アンサンブルにて楽曲に対する他パートのアプローチやリズムによる表現効果を考察。【課題曲⑤】実践を想定し、パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 47～54回目	【課題曲⑥】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑥】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑥】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 55～62回目	【課題曲⑦】楽曲の考察と、歌唱表現の練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑦】アンサンブルにて楽曲に対する表現効果を考察。自分なりの解釈で、表現練習。コーラスワークの練習。【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 63～70回目	【課題曲⑧】オリジナル楽曲を課題とする。楽曲の考察、歌唱表現の練習。アレンジの思考。資料の作成。【課題曲⑧】アンサンブルにて自身楽曲アレンジの思考を他パートへ伝える。表現試行。【課題曲⑦】パフォーマンスの練習。⇨動画チェック。
【後期】 71～74回目	【課題曲⑤～⑧】ライブ発表会に向け、各自選択曲(主にオリジナル)を復習。再度アンサンブルにて楽曲考察、歌唱、表現、パフォーマンスの練習。【課題曲⑤～⑧】1年間のまとめ。発表会当日に行うステージでの流れを確認。 ■後期試験：課題曲の歌唱、演奏により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 表現力 / 他パートとのやりとり / 機材の使い方」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽の表現に確固たる「正解」というものはありませんが、言葉や音、リズムによって感じる効果は概ね共有できます。その効果を自身の演奏だけでなく他パートの音やフレーズも交えながら習得していくことで、自身のライブステージや楽曲制作においてより明確に理想を具現化することができます。また、他の音をイメージすることで弾き語りでの表現力も高まります。
備考	